

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473301008	事業の開始年月日	平成17年12月1日
		指定年月日	平成17年12月1日
法人名	有限会社真全		
事業所名	グループホームまっとう		
所在地	(〒226-0026) 横浜市緑区長津田町2365		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年9月20日	評価結果 市町村受理日	平成30年11月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

長津田駅より徒歩約10分のつくし野に抜ける森の入り口にあり朝日が燦々と降り注ぎ鳥の声で目覚める、まるで避暑地に来たような空間は訪れた人を魅了する緑豊かな環境にあります。入居時に「私の人生の歴史」を書いて頂きそれまでの暮らしや大切にしてきたことを伺い、そのひとらしさを大切に生き生きと暮らして頂ける様個別ケアを行っております。お一人おひとりに居室担当者を設け、ご家族に手書きで毎月の状況報告を郵送でお届けしております。3ヶ月に1回ケアプランを見直し、ご家族に訪ねて頂き同意を得てその都度要望を伺っております。自治会の班長をさせて頂き地域の催しに積極的に参加し馴染みの人や場所の継続ができています。今年度はお祭り開催のお手伝いをし、地域の中に溶け込み活動を更に積極的に行っております。年間行事としてご家族にも参加して頂ける催しを年6回行い職員手作りのバイキング形式の料理は好評です。施設全体で取り組んでいる傾聴と共感を基本とした認知症対応の切り札としてのバリデーション研修は今年度も講師を招いて月1回行っております。
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年10月22日	評価機関 評価決定日	平成30年11月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】 この事業所はJR 横浜線及び東急田園都市線・こどもの国線の長津田駅から徒歩10分程の緑豊かな高台にあり、リビング・ダイニングやウッドデッキから電車の往来などの街並みを見下ろす眺望の良い静かな場所に立地している。近隣には交流している小学校や地区センターがある。木造2階建てでバリアフリーの屋内は快適に過ごしてもらえるよう、両側から入浴介助ができる浴槽などの設備を備えている。歩くことを基本としており訪問時には、車椅子がすれ違える広々とした廊下で利用者がこぞってウォーキングを楽しんでいた。神奈川県が2016年度から始めた優良な介護事業所を表彰する制度「かながわベスト介護セレクト20」を2017年に受賞している。
【自治会との交流や地域資源の活用を通じた理念の実践】 管理者が自治会の班長を務め、会費の集金をきっかけに話をしたり、雪かきを手伝ってもらえる関係を構築している。また、会合や祭りの運営に参加するなかで地域の情報を得て小学校の運動会見学や地区センター主催の祭、自治会の各行事に参加したりエアロビクス、畑の手入れ、草笛の指導のボランティア等、地域資源を活用している。近隣の同一法人他施設の催し会にも出かけ、利用者が楽しみながら生活できるよう、日中3人体制のシフトを組みサービスを提供し「共に自然体（まっとう）に生きる」という理念の実践につなげている。
【計画的な職員の育成】 年間を通して2～3名に対してのバリデーション研修を毎月行い、計画的に職員を育成し、ほぼ全員が受講を修了している。また、法人の職員が企画・指導する年2回の防災訓練では、水消火器の取り扱いや誘導時間を計った救出、回転備蓄を使用した食事体験など、全職員が参加して災害に備え職員の質の向上に努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームまっとう
ユニット名	Aユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	グループホームまっとう
ユニット名	Bユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に掲示し朝礼で唱和し実践に繋げている。職員は心のこもった声掛けに努め信頼関係が築ける様にしていると共に残存能力を活かせる様会議等でケアの確認を行っている。	『共に自然体（まっとう）に生きる』を柱に「私たちは、入居者の残存能力を活かすよう支援します」など4項目の事業所理念を掲げている。事業所内での掲示などで理念を共有している。利用者に尊敬の念を持って接するなどの職員心得を念頭に置き接遇の向上に努めている。理念にそぐわない場面を見かけた際は、理念に立ち返るよう確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の班長を務めており会合や祭りの運営にも参加させて頂いている。どんど焼き、盆踊り、芋煮会、敬老会等で馴染みの方に会え交流が出来、繋がりが広がっています。	東向地自治会に加入し、管理者が班長を引き受けている。会費集金時に住民と会話し情報を得ている。敬老会などの行事に利用者が参加している。近隣の小学校の運動会を見学したり地区センターなどとの交流がある。ボランティアが訪れ、野菜栽培、草笛の指導などを介して利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	長津田ささえあいネットの協力事業者として今年度の活動で認知症カフェで地域住民を対象とした出張相談会を当番制で行っています。年間行事の中でご家族に参加して頂いている催しに近所の方にも案内を配布し参加を呼びかけています。運営推進会議を通じて施設の事を知って		

			頂ける内容を発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施し運営状況や活動状況報告を行っている。メンバーはご家族代表、自治会副会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、法人本部職員、施設職員です。これまで認知症についての基本的な知識や不適切なケア等毎回テーマを決めて行っています。	運営推進会議は偶数月に開催し、活動内容などの報告をしている。看取りや防災訓練などテーマを決めて開催しており、そこでの意見を参考にしている。メンバーは自治会副会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、法人及び事業所の職員の他、利用者の家族も参加している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢・障害支援課と連携し運営推進会議にも参加して頂いて助言を受けている。横浜グループホーム連絡会に入会し情報を密にとっている。	緑区高齢・障害支援課の職員とは、運営推進会議での意見交換だけでなく、事業所や成年後見人の相談に対して、助言をいただくなど、協力が得られている。グループホーム連絡会に参加し、情報交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に身体拘束をしない介護について明記し契約時に説明し外部研修、内部研修を実施し身体拘束防止委員会の設置を行っている。玄関のドアは開錠しているが防犯対策と安全を考慮し2階は内側のドアは施錠している。	玄関と1階ユニットの扉は、開錠している。2階ユニットは利用者が外に出る事例があり、森や線路が近いことから安全を優先し家族に理解を得て扉を施錠している。身体拘束をしない介護についての外部研修報告や内部研修で禁止行為などの理解に努めている。	利用者がトイレに入室すると鳴るセンサーの設定については、夜間のみとし、昼間は見守りを中心として、設定を外すなどの工夫をすることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての外部研修、内部研修を行い徹底している。虐待に繋がる不適切なケアについて学び共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会を設け成年後見人制度を利用している。利用している入居者の判断能力が無くなり任意後見人がつきました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結にあたっては、入居者の不利益になることがない事を基本に十分話し合いを持ち、不安、疑問点がない形で入退去頂いております。変更、改定の際は同意書を頂いております。		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会、運営推進会議、3ヶ月に1回のケアプラン説明時に家族との意見交換を行い意向や要望を把握している。家族の意向で毎月の活動報告を居室担当者が手書きで作成し郵送している。	来訪時のほか年2回開催の家族会や春祭りなど、家族が参加できる年6回の行事があった際に利用者の様子を伝え、家族などから意見を聞いている。「猫や犬と触れ合いたい」という意見に対応し、動物アレルギーなどに配慮しながら1か月に1回程の頻度で、職員が飼っている猫や犬と利用者が触れ合える機会を作っている。	
----	---	---	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するフロア会議では職員が遠慮なく発言出来る雰囲気を作りサービスに反映している。個人面談を行い一人ひとりの意見や要望を聞き相談にのり働きやすい環境を作っています。	管理者は、人事考課制度に基づいて行われる個別面談時や毎月開催のフロア会議などで職員から話を聞いている。ケア会議時に利用者一人ひとりのケアの確認をしており、パットの大きさや書類の形式変更など、職員の提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算1を取得し人事考課制度を導入しました。給与が上がりモチベーションがアップしているように思います。		

13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修（救命救急や内部研修（バリデーション研修、施設間の相互研修等）に参加してもらい職員を育てる取り組みを行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>日本認知症グループホーム協会を主体に、横浜グループホーム連絡会（青葉、緑ブロック）に積極的に参加し、会主催の研修のグループホーム相互の現場研修では職員を受け入れ派遣し交流の機会を作っています。最近ですが神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会にも入会し研修の場を増やすことと、他のグループの方との交流の場を広げたいと思っています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に私の人生の歴史を書いてもらいその人らしさを理解した上でアセスメントシートやケアプランを作成し困り事や不安に思っている事を傾聴し信頼関係を築く努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約書の十分な説明を行うとともに困り事や不安に思っている事や要望を傾聴し信頼関係を築く様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体面、精神面やご家族の関係等を充分アセスメントし、どのような支援が必要か見極め他の社会資源も活用し最善のサービスが受けられるように対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはご自分で頂き一緒に暮らしている者同士の対等な関係を築き人生の先輩として敬いの態度で接しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月居室担当者が手書きで「今月のお知らせ」で近況報告をしています。どの時間でも気軽に来訪して頂ける様働きかけ、チームの一員として関わって下さる様提案しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自治会の催し、どんど焼き、芋煮会、盆踊り、敬老会に出席して頂き馴染みの人や場所の関係が継続出来ています。外に出られない入居者には施設にいつでも訪問して頂いて関係が途切れない様になっています。	アセスメントや家族の話から利用者のこれまでの馴染みの関係を把握し、友人からの贈り物のお礼にFAXを送信する支援をしている。また、友人が毎週訪れたり家族と自宅に行くなどで馴染みの人との関係を保っている。入居前から食べているヨーグルトの提供や朝食を週3日米飯からパンに変えるなど、これまでの生活の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の性格を把握する事により、孤立感を防止し、良い関係が築ける様職員が橋渡しをし、入居者同士で支え合える環境を作っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、電話、手紙等を通じて、信頼関係を保ち、要請に応じて、相談・支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から声掛けする事を心掛け 困り事や不安に思っている事を把握し表情から汲み取る様努めています。日々の情報を朝礼で把握し職員間で共有し改善に努めています。フロア会議でケアの確認をし、個別ケアを大切にしています。	アセスメントや日常会話のほか外気浴や入浴時などにも意向の把握に努めている。思いを言葉にしづらく意向の把握が困難な方は、目や表情などを見て思いを汲み取っている。把握した内容は申し送りや業務日誌に残して共有し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「わたしの人生の歴史」を書いてもらいアセスメントシートを活用し馴染みの人や場所の継続が出来る様把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由に過ごして頂く事を基本に強制ではなく一人ひとりの出来ることを見極め出来ることはご自分で行って頂いています。役割を持っていただく事が生きがいに繋がる様支援しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員による毎月のモニタリングに加え、サービス担当者会議を実施した上で医療関係者の考えを参考にしながらご本人ご家族に理解頂ける介護計画を作成しています。必要に応じて医療関係者とご家族を交えて今後の方針を納得できるまで話し合いをしています。	利用開始時や退院時は1ヶ月で介護計画を見直し、短期目標は3カ月、長期計画は6か月に1度見直している。居室担当制にしてモニタリングを行い、利用者の様子を確認し、本人や家族からの要望を把握したうえで介護計画を策定している。必要に応じて医療関係者に意見を聞いている。個人記録に医療事項の欄を設け、見直しに活かしている。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日頃から個別記録を詳細にするよう心掛け申し送りノートも活用し情報共有に努めています。申し送りやフロア会議で話し合い介護計画書の見直しに活かしています。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1階2階に関係なく行き来する様柔軟に対応しています。同じ事業所の他施設とも交流しています。また、週1回個別に対応して頂けるボランティアの方がおり気分転換になっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週1回来訪して草笛の指導や歌を唄って頂けるボランティアの方、自治会の催し、地域の催し、近隣施設での演芸会等地域資源を最大限に活用することにより豊かな生活を楽しんで頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を継続しご本人ご家族が希望する適切な医療提供の支援をしています。	利用者全員が月2回、内科の提携医の往診を受けている。皮膚科など従前からの医師の受診は、家族が対応している。受診結果は「個人記録」や「業務日誌」に記入し情報を共有している。歯科医はユニットごとに月1回、治療と口腔ケアのため来訪している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は業務日誌や個人記録を十分に確認し申し送りにより情報を共有している。看護職員は対応内容を業務日誌に記載しフィードバックしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された時は職員が出来る限り訪問し現状把握しご家族とも連絡を取り合い早期退院に向け病院関係者との話し合いに努めています。病院開催の交流会に参加し良好な関係づくりを行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの説明を行い同意を得ると共に入居者の心身の状況を勘案し急変時の対応についてご家族と時には主治医を交えて話し合いの場を設けています。	利用契約書に指針を明示し、利用開始時に同意書の「看取りに関する方針」で事業所の方針を家族等に説明している。終末期には、本人・家族などの意向を確認し、医師と話し合っている。これまでに看取の実績がある。職員は看取りの研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救命講習の受講者が職員の半数以上おり今後も全員の取得を目指しています。急変時の対応方法・緊急連絡網を掲示し、年2回の避難訓練を実施しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難を実施し避難手順を全職員が習得し、地域の避難訓練にも参加すると共に自治会との協力体制を構築しています。	年2回、避難訓練を実施している。職員は全員参加が原則で、その他に近隣住民1名が訓練に参加している。備蓄品は缶詰、カレー、ビスケット、米などの非常食と水、おむつやカセットコンロなどを準備し、リストを作成して管理している。回転備蓄を実施しており、訓練時に備蓄品を使い食事作りをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの性格や行動を把握し詳しい説明や注意はしない様努め常に敬いの態度で接するように心掛けています。	入職時に理念や接し方、言葉使いなどを記載した『「まっとう」職員心得』を職員に渡し一人ひとりの人格の尊重に努めている。訪問時には、プライバシーを損なうような言葉かけは見受けられなかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位を常に優先し十分に傾聴し言葉にならない声にも耳を傾け希望を伝えて頂ける様声掛けを工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	職員の都合を優先しない様会議等で伝えていきます。その日の体調や状況に合わせて過ごして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で髭剃りや整髪ができ好きな洋服を選んで着て頂ける様にしています。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食前の口腔体操で始まり職員も一緒に会話を楽しみながら和気あいあいと食事出来る雰囲気作りをしています。</p>	<p>惣菜は専門業者が作った調理済みのものを湯煎している。ご飯、味噌汁は職員が作り提供している。現在、献立がマンネリ化したのでユニットごとに業者を替えて様子を見ている。利用者の嗜好を考慮して注文を中止することもある。お粥や刻み食など利用者の状況に応じて食事形態を変えている。訪問時に職員は見守りや介助をしながら、利用者と同じ食事を食べていた。利用者は、お盆拭きを行っている。父の日と母の日の行事で外食をしている。誕生日、敬老会、夏祭りは特別食を提供して食事を楽しめるようにしている。</p>	
----	----	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分摂取量を記録し把握している。状態に応じ食事形態や量を変え、好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の指導の下に毎食後一人ひとりに対応した口腔ケアを行っています。ご自分で出来る事はやって頂き仕上げをさせていただきます。ありがとうございます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄出来る様、排泄パターンや習慣を活かして声掛けや誘導を行っております。	排泄パターンを把握し、利用者個々に合わせた声かけをして、トイレで排泄ができるよう支援している。リハビリパンツ利用の方が多いが、病状が回復したことや支援を続けたことで布パンツへと改善したケースがある。夜間は、ポータブルトイレやおむつを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩いて頂く事を基本とし運動不足にならない様、働きかけています。飲食物にも気を配り便秘予防に努めております。腹部マッサージも行っています。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週2回の入浴は決めていますが入居者様の体調や都合に合わせて日程や時間は柔軟に対応しております。便汚染のある方はその都度入浴して頂いております。バルーン留置の方は毎日陰部洗浄を行っています。</p>	<p>概ね週に2回のペースで午前中に入浴している。お湯は入浴のたび交換して清潔を保持している。入浴が困難な利用者は職員2人での介助やシャワー浴、清拭などで対応している。また、介護保険外で訪問入浴を利用している方がいる。入浴を拒まれる方には、職員を変えるなどの対応をとっている。浴室や脱衣所のヒートショック対策をしている。</p>	
----	----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも疲れたら居室で自由に横になって休んで頂いております。室温や寝具の調整をし、安眠出来る様心掛けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬対策マニュアルを作成し職員間で情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌やゲーム、ピアノの伴奏、カーテンの開閉、お盆拭き洗濯物干し、たたみ、掃除機掛け庭の落葉清掃等強制ではなく張り合いが持てる様お手伝いしていただいています。散歩や外気浴、ボランティアの方との交流も楽しみの一つになっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、施設回りの外気浴に行きます。パン屋さんでのおやつや、母の日、父の日の外食、他の施設の催し、自治会のイベントに参加しています。	月に3～4回、同一法人の事業所で催される手品や大正琴などの鑑賞会へ徒歩で出かけている。歩けない方は車を利用して出かけている。散歩や買い物、寺家ふるさと村などへのドライブ、家族との外食など個々のリズムや要望に合わせて出かけている。傾斜地に立地しており車椅子での散歩は困難なため、代わるものとして外気浴を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じ所持して頂き利用の支援をしています。職員と一緒に買い物に行きご自分で支払いをしていただきます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をご家族から預かりご希望により電話していただいています。友人との電話や手紙の返信、ファックスを利用してやり取りしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやソファの配置や座る場所に配慮し行事ごとの写真を壁に貼りボランティアの方が育てた季節の花を飾り生活感を大切にしています。常に清潔感のある空間を心掛けています。	リビング・ダイニングの大きな窓は眺望が良く、街並みや木々から自然の移ろいが感じられる。居室の表札には花の写真を掲示し、トイレ表示も文字を大きくしたり、公衆トイレのマークを用いて分かりやすくしている。リビングの壁には、行事や外出時などの写真や時計が掛けてある。訪問時は、玄関先にビオラなどが植えられていた。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに集まれる様配置し気の合った方同士が隣席になれる様にしています。一人になれるソファも置いてあります。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇などご本人やご家族と相談して置いております。ベットマットは身体機能の低下に応じご家族と充分検討し福祉用具の業者に相談し高品質な商品を格安で購入出来る様にしています。	事業所の備品は、エアコン、カーテン、照明器具、クローゼット、ベッド、ナースコールである。テレビ、写真、椅子、カレンダーなど、利用者は好みの物を持ち込み、居心地良く過ごせるようにしている。ベッドの位置は転倒しないよう、状態を考慮して決めている。冬季は加湿機を置き環境を整えている。訪問時は、窓を開け空気を入れ替えていた。		

55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩いて頂く事を基本とし広い廊下を利用して歩行訓練を行っております。一人で歩けない方は両腕を支えたり歩行器を利用して歩いて頂いております。車椅子を自由に自走される方もおられます。		
----	---	--	--	--

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム まっとう

作成日 平成30年11月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	ご利用者様がトイレに入室されると鳴るセンサーについては夜間のみとし昼間は見守りを中心として設定を外すなどの工夫をする事を期待します。	トイレに入ると鳴るセンサーの設定については夜間のみとし昼間は見守りを中心とし設定を外します。	トイレに入ると鳴るセンサーはフロア会議や申し送りノートを活用し日中は使用しない様情報共有します。プライバシーの観点からも職員全員に徹底していきます。	6ヶ月
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。